

公共交通の利用状況

1 鉄道の乗車人数

JR 武豊線各駅の乗車人数の推移は、表 1 及び図 1 のとおりである。また、そのうち定期券を利用した乗車人数は、表 2 及び図 2 のとおりである。

(1) 令和 3 年度と平成 30 年度の乗車人数の比較

表 1 及び図 1 から、令和 3 年度の武豊線各駅の乗車人数の計は 1,747,783 人、コロナ禍以前の平成 30 年度の乗車人数の計は 1,963,592 人である。**令和 3 年度と平成 30 年度の乗車人数の計とで比較すると 215,809 人の減 (11%減)** となっていることが分かる。

また、表 2 及び図 2 から、**JR 武豊線の乗客は約 7 割が定期券ユーザー**であること、令和 3 年度と平成 30 年度の定期券を利用した乗車人数で比較すると、緒川駅は 3,504 人の増となっているが、各駅の計では 138,827 人の減となっていることが分かる。

この乗車人数の減少は、コロナ禍の影響を受け、**リモートワークやオンライン授業が推進されたことによって、定期券ユーザーが大きく減少**したことが原因ではないかと考えられる。

表 1 JR 武豊線各駅の乗車人数の推移 (人)

	H30	R1	R2	R3	R3-H30	R3/H30	R3-R2	R3/R2
尾張森岡駅	227,044	235,339	197,154	199,574	△ 27,470	87%	2,420	101%
緒川駅	597,063	693,989	566,900	582,692	△ 14,371	97%	15,792	102%
石浜駅	452,914	453,298	371,773	389,375	△ 63,539	85%	17,602	104%
東浦駅	686,571	694,238	568,192	576,142	△ 110,429	83%	7,950	101%
計	1,963,592	2,076,864	1,704,019	1,747,783	△ 215,809	89%	43,764	102%

図 1 JR武豊線各駅の乗車人数の推移

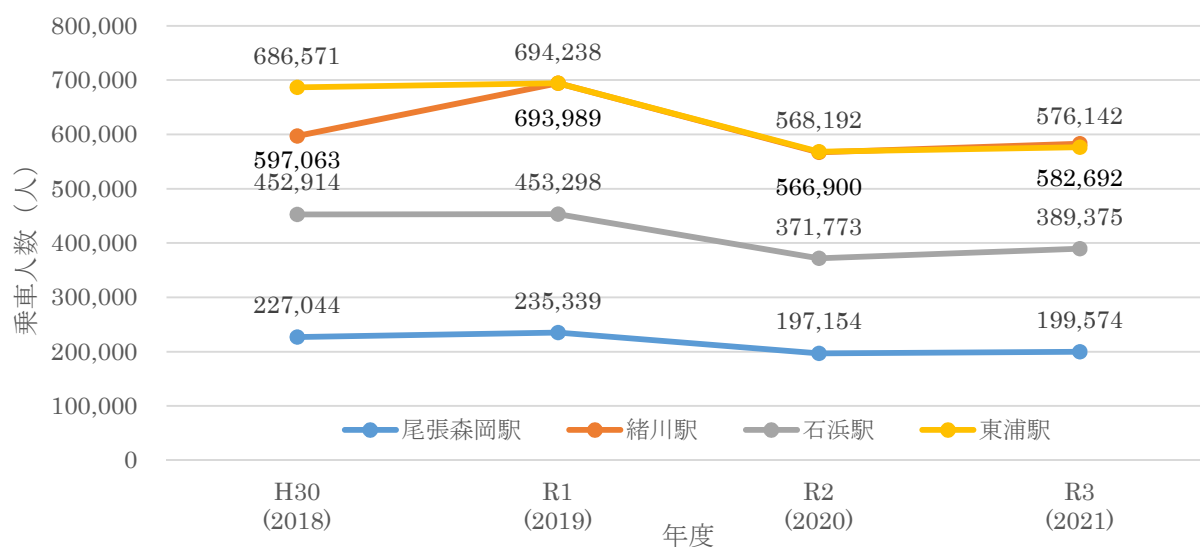
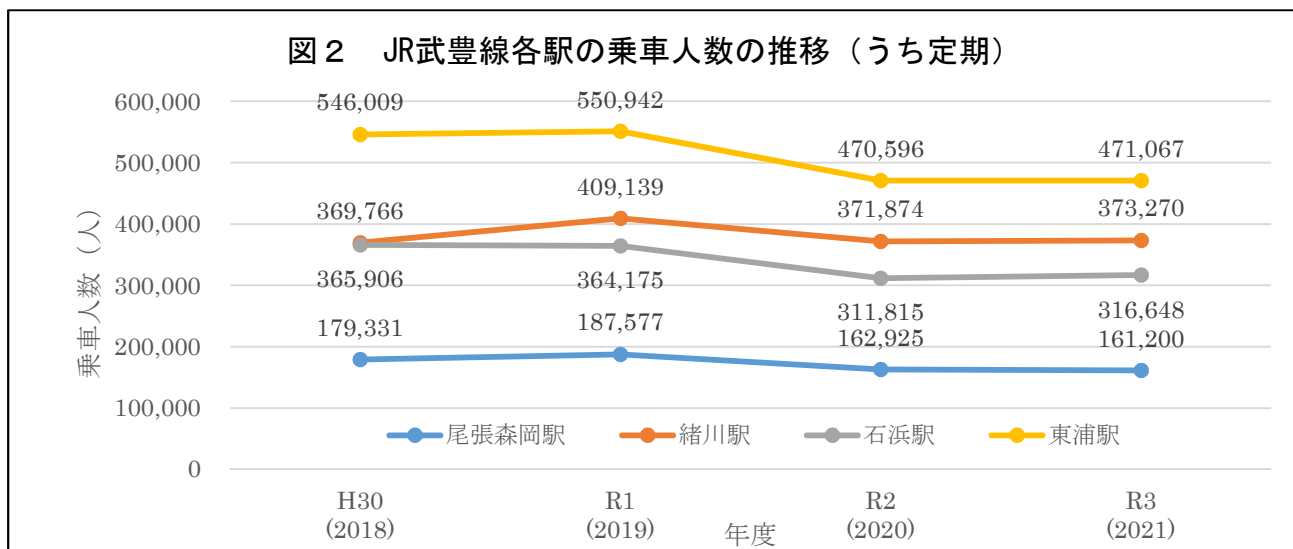


表2 JR武豊線各駅の乗車人数の推移（うち定期）（人）

	H30	R1	R2	R3	R3-H30	R3/H30	R3-R2	R3/R2
尾張森岡駅	179,331	187,577	162,925	161,200	△ 18,131	89%	△ 1,725	98%
緒川駅	369,766	409,139	371,874	373,270	3,504	100%	1,396	100%
石浜駅	365,906	364,175	311,815	316,648	△ 49,258	86%	4,833	101%
東浦駅	546,009	550,942	470,596	471,067	△ 74,942	86%	471	100%
計	1,461,012	1,511,833	1,317,210	1,322,185	△ 138,827	90%	4,975	100%



（2）令和3年度と令和2年度の乗車人数の比較

表1及び図1から、令和3年度と同様にコロナ禍以降である令和2年度の乗車人数の計は1,704,019人である。令和3年度と令和2年度の乗車人数の計とで比較すると43,764人の増（2%増）となっていることが分かる。

また、表2及び図2から、JR武豊線の乗客は約7割が定期券ユーザーであること、令和3年度と令和2年度の定期券を利用した乗車人数で比較すると、尾張森岡駅は1,725人の減となっているが、各駅の計では4,975人の増となっていることが分かる。

この乗車人数の増加は、コロナ禍の影響を受けてリモートワークやオンライン授業に移行していた利用者が、ワクチン接種率の向上等によって、感染者数が減少したことや、外出に対する意識が変化したことが原因ではないかと考えられる。

2 民間路線バスの利用者数

知多乗合株式会社各路線の利用者数の推移は、表3及び図3のとおりである。なお、各路線図は図4、図5、図6のとおりである。

(1) 令和3年度と平成30年度の利用者数の比較

①「大府線・大府循環線」と「東ヶ丘団地線」の利用者数

表3及び図3から、令和3年度の大府線・大府循環線の利用者数は123,761人、コロナ禍以前の平成30年度の利用者数は204,644人である。令和3年度と平成30年度の大府線・大府循環線の利用者数で比較すると80,883人の減(40%減)となっていることが分かる。

同様に、令和3年度の東ヶ丘団地線の利用者数は28,582人、コロナ禍以前の平成30年度の利用者数は47,198人である。令和3年度と平成30年度の東ヶ丘団地線の利用者数で比較すると18,616人の減(40%減)となっていることが分かる。

なお、図4及び図5から、両路線とも住宅地と鉄道駅を繋ぐ、通勤・通学等で利用が主となる路線であることが分かる(大府線・大府循環線は大府駅と医療施設を繋ぐ、通院での利用もある)。

以上のことから、両路線の利用者数の減少は、コロナ禍の影響を受け、リモートワークやオンライン授業が推進されたことによって、通勤・通学での利用者数が大きく減少したことが原因ではないかと考えられる。

②「刈谷中部空港線」の利用者数

表3及び図3から、令和3年度の刈谷中部空港線の利用者数は2,399人、コロナ禍以前の平成30年度の利用者数は99,710人である。令和3年度と平成30年度の刈谷中部空港線の利用者数で比較すると97,311人の減(98%減)となっていることが分かる。

この利用者数の減少は、コロナ禍の影響を受け、運行便数を減便(平成30年度：1日当たり27便、令和3年度：1日当たり2便)したことが原因ではないかと考えられる。

③町内外含む全14路線

表3及び図3から、令和3年度の町内外含む知多乗合(株)が運行する全14路線(上野台線、横須賀線、大府線・大府循環線、朝倉団地線、佐布里線、岡田線、日長団地線、東ヶ丘団地線、半田北部線、半田・常滑線、常滑南武線、空港貨物地区循環線、師崎線、刈谷中部空港線)の利用者数は1,076,184人、コロナ禍以前の平成30年度の利用者数は1,573,766人である。令和3年度と平成30年度の全14路線の利用者数で比較すると497,582人の減(32%減)となっていることが分かる。

この利用者数の減少は、半田市が計画した公共交通の再編にともない、半田市内の民間バス路線をコミュニティバスへ置き換えたことによって、民間バス路線の利用者数が減少したこと、コロナ禍の影響を受け、リモートワークやオンライン授業が推進されたことによって、大府・大府循環線の通勤・通学利用者が減少したことが原因ではないかと考えられる。

表3 知多乗合株式会社各路線の利用者数の推移

	H30	R1	R2	R3	R3-H30	R3/H30	R3-R2	R3/R2
大府線・大府循環線	204,644	185,828	102,487	123,761	△ 80,883	60%	21,274	120%
東ヶ丘団地線	47,198	45,064	31,722	28,582	△ 18,616	60%	△ 3,140	90%
刈谷中部空港線	99,710	98,383	1,775	2,399	△ 97,311	2%	624	135%
全14路線	1,573,766	1,711,089	1,061,641	1,076,184	△ 497,582	68%	14,543	101%

図3 知多乗合株式会社各路線の利用者数の推移

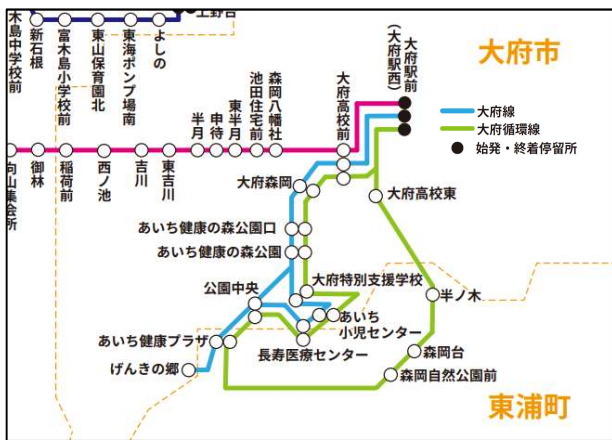
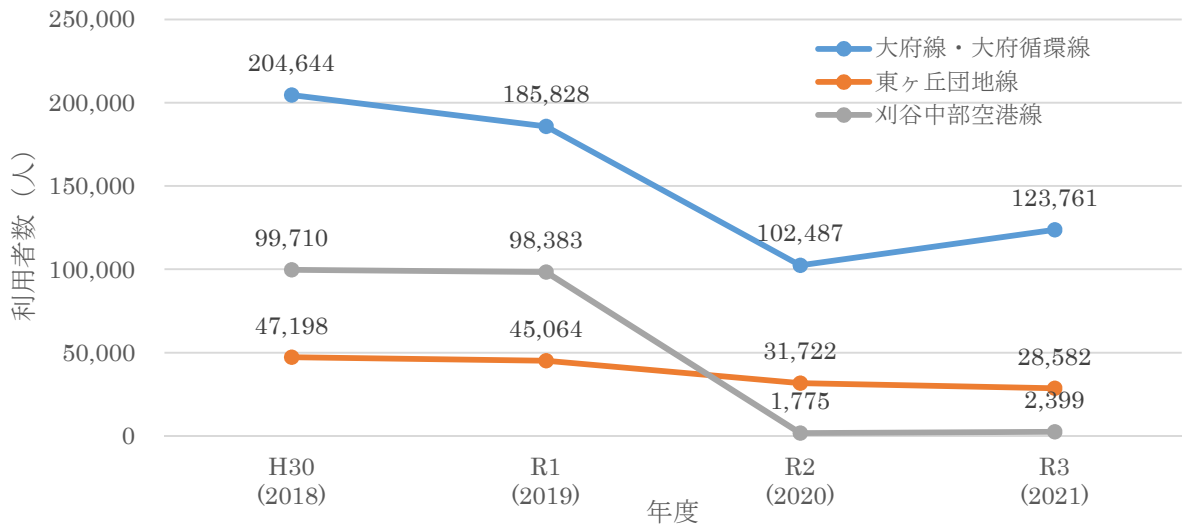


図4 大府線・大府循環線の路線図

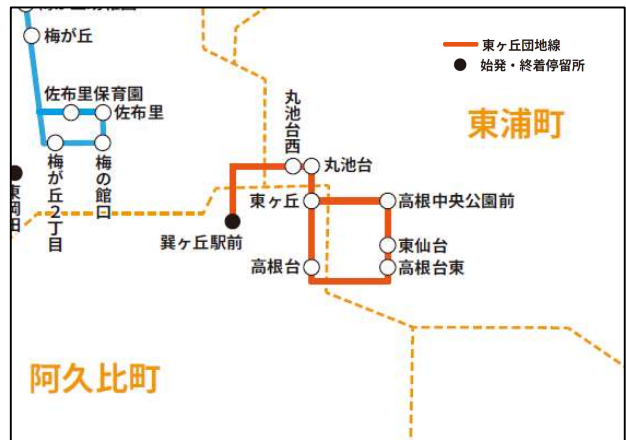


図5 東ヶ丘団地線の路線図



図6 刈谷中部空港線の路線図

(2) 令和3年度と令和2年度の利用者数の比較

①「大府線・大府循環線」の利用者数

表3及び図3から、令和3年度と同様にコロナ禍以降の令和2年度の大府線・大府循環線の利用者数は102,487人である。令和3年度と令和2年度の大府線・大府循環線の利用者数で比較すると14,543人の増(1%増)となっていることが分かる。

この利用者数の増は、大府駅前から医療施設(長寿医療研究センター・あいち小児医療総合センター)に移動する利用者数が回復傾向にあることや、コロナ禍の影響を受けてリモートワークやオンライン授業に移行していた利用者が、ワクチン接種率の向上等によって、感染者数が減少したことや、外出に対する意識が変化したことが原因ではないかと考えられる。

②「東ヶ丘団地線」の利用者数

表3及び図3から、令和3年度と同様にコロナ禍以降の令和2年度の東ヶ丘団地線の利用者数は31,722人である。令和3年度と令和2年度の東ヶ丘団地線の利用者数で比較すると3,140人の減(10%減)となっていることが分かる。なお、他路線の令和3年度の利用者数が令和2年度比で増加している中、町内では本路線のみが減少している。

この利用者数の減少は、コロナ禍による利用者数の減少だけでなく、高齢化によって、東ヶ丘団地内の通勤・通学を目的とした利用者の母数が減少していることが原因ではないかと考えられる。

③「刈谷中部空港線」の利用者数

表3及び図3から、令和3年度と同様にコロナ禍以降の令和2年度の利用者数は1,775人である。令和3年度と令和2年度の刈谷中部空港線の利用者数で比較すると624人の増(35%増)となっていることが分かる。

この利用者数の増加は、航空便の運休や外出自粛要請に伴い、本路線が令和2年4月16日から令和2年7月31日の期間に運休していたことに対して、令和3年度は毎日運行したことが原因ではないかと考えられる。

④町内外含む全14路線

表3及び図3から、令和3年度と同様にコロナ禍以降の令和2年度の町内外含む知多乗合(株)が運行する全14路線の利用者数は1,061,641人である。令和3年度と令和2年度の全14路線の利用者数で比較すると14,543人の増(1%増)となっていることが分かる。

この利用者数の増加は、大府線・大府循環線において、大府駅前から医療施設(長寿医療研究センター・あいち小児医療総合センター)に移動する利用者数が回復傾向にあることが主な原因ではないかと考えられる。

3 タクシーの利用台数

タクシー事業者3社（安全タクシー(株)、大興タクシー(株)、名鉄知多タクシー(株)）の町内での利用台数の計の推移は、表4及び図7のとおりである。また、令和元年度から令和3年度の月別推移については表5及び図8のとおりである。

(1) 令和3年度と平成30年度の利用台数の比較

表4及び図7から、令和3年度の利用台数は14,871台、コロナ禍以前の平成30年度の利用台数は19,933台である。**令和3年度と平成30年度の利用台数とで比較すると5,062台の減(26%減)**となっていることが分かる。

この利用台数の減少は、コロナ禍以前から続いている**乗務員不足による稼働率の低下**やコロナ禍による**外出自粛、出張・深夜営業時間の需要の低下**が原因だと考えられる。

(2) 令和3年度と令和2年度の利用台数の比較

表4及び図7から、令和3年度と同様にコロナ禍以降の令和2年度の利用台数は11,122台である。**令和3年度と令和2年度の利用台数とで比較すると3,749台の増(33%増)**となっていることが分かる。

また、表5及び図8から、令和3年度の利用台数は、**緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されている期間においても、令和2年度の月間利用台数を上回っている**ことが分かる。

この利用台数の増加は、**移動需要の回復に伴い乗務員の休業が解除されたことで稼働率が向上**（名鉄知多タクシー(株)では4月より・大興タクシー(株)では11月より解除）したことや、令和3年10月から年末の期間に**緊急事態宣言が解除されたことでの外出機会の増加**や、**特に夜間の移動需要が回復傾向**にあったことが主な原因だと考えられる。

表4 タクシーの利用台数の推移(台)

	H30	R1	R2	R3	R3-H30	R3/H30	R3-R2	R3/R2
利用台数	19,933	16,927	11,122	14,871	△ 5,062	74%	3,749	133%

図7 タクシーの利用台数の推移

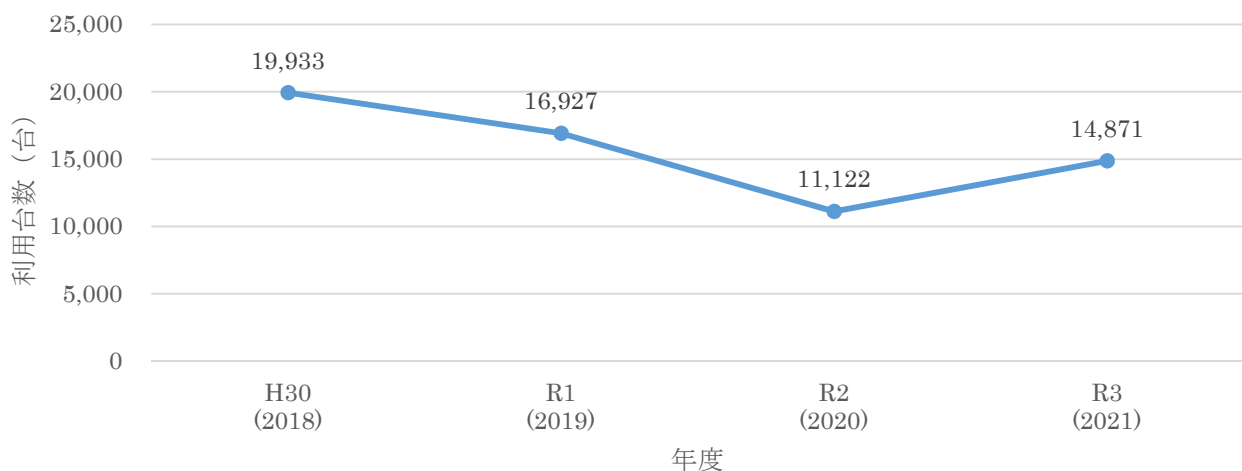
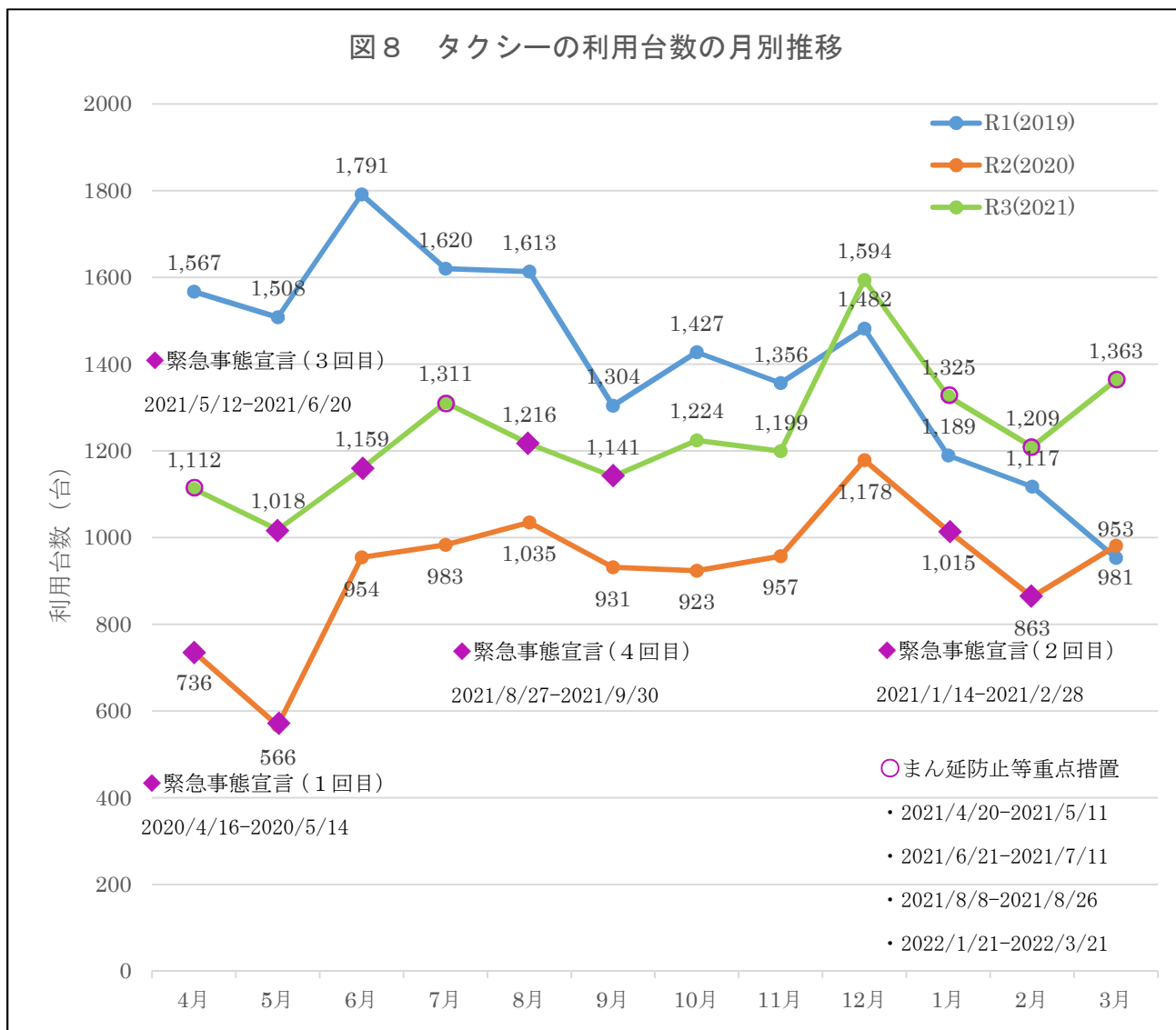


表5 タクシーの利用台数の月別推移（台）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1	1,567	1,508	1,791	1,620	1,613	1,304	1,427	1,356	1,482	1,189	1,117	953	16,927
R2	736	566	954	983	1,035	931	923	957	1,178	1,015	863	981	11,122
R3	1,112	1,018	1,159	1,311	1,216	1,141	1,224	1,199	1,594	1,325	1,209	1,363	14,871



4 「う・ら・ら」の利用者数

東浦町運行バス「う・ら・ら」の利用者数の月別推移は表6、図9のとおりである。

(1) 令和3年度と平成30年度の利用者数の比較

表6及び図9から、令和3年度の全路線の利用者数の計は222,272人、コロナ禍以前の平成30年度の利用者数は258,881人である。**令和3年度と平成30年度の利用者数とで比較すると36,609人の減(14%減)**となっていることが分かる。

この利用者数の減少は、**令和元年10月のダイヤ改正による利用控えや、コロナ禍における外出自粛**が原因だと考えられる。

(2) 令和3年度と令和2年度の利用台数の比較

表6及び図9から、令和3年度と同様にコロナ禍以降の令和2年度の利用者数は179,539人である。**令和3年度と令和2年度の利用者数とで比較すると42,733人の増(24%増)**となっていることが分かる。

また、図9から、令和3年度の利用者数は、令和3年2月のダイヤ改正以降の利用者数が底上げされたように増加していること、緊急事態宣言が発出された際の利用者数の減少幅が令和2年度と比較して令和3年度は小さくなっていることが分かる。

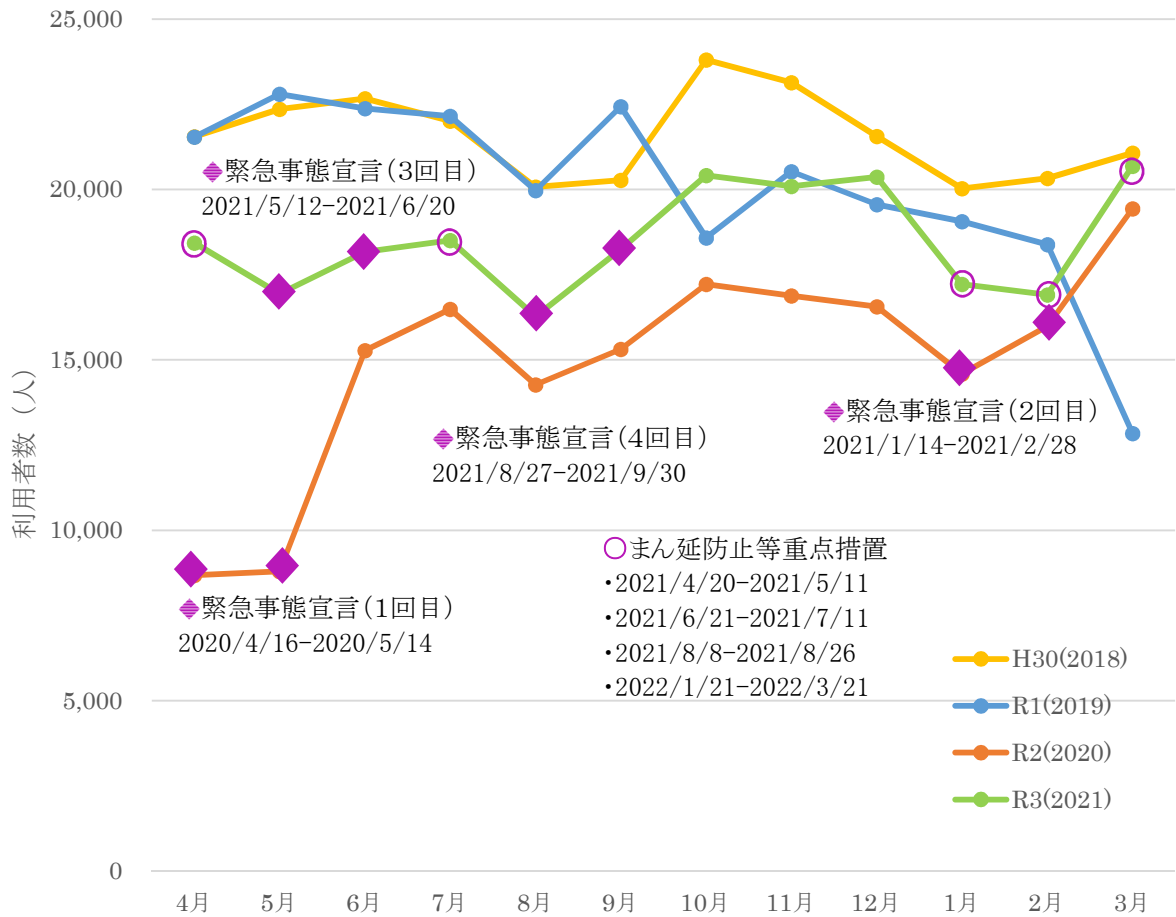
この利用者数の増加は、**発着時刻・乗り継ぎ待機時間の見直しや各路線の増便によるダイヤ改正(令和3年2月実施)の効果や、ワクチン接種率の向上等による外出意識の変化に伴って、東浦町運行バス「う・ら・ら」の利用者数が回復傾向にあったことが主な原因**だと考えられる。

表6 「う・ら・ら」の利用者数の月別推移

	路線名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	刈谷線	2,209	1,851	1,853	2,258	2,432	1,889	2,305	2,173	2,427	1,772	1,687	2,658	25,514
	長寿線	3,389	3,114	3,414	3,685	3,441	3,412	3,745	3,728	3,709	3,367	3,215	4,126	42,345
	環状線(左回り)	5,937	5,524	5,818	5,770	4,923	6,086	6,382	6,272	6,447	5,616	5,425	6,258	70,458
	環状線(右回り)	5,370	5,070	5,438	4,856	3,685	5,099	5,757	5,618	5,505	4,634	4,653	5,396	61,081
	東浦高校線 (於大公園南経由)	1,236	1,120	1,251	1,514	1,427	1,543	1,756	1,831	1,804	1,479	1,576	1,809	18,346
	東浦高校線 (文化センター経由)	693	675	778	849	756	645	911	921	955	701	676	911	9,471
	長寿医療研究センター直行便	58	35	45	36	46	39	44	65	46	38	38	60	550
	計(A)	18,892	17,389	18,597	18,968	16,710	18,713	20,900	20,608	20,893	17,607	17,270	21,218	227,765
	乗継券利用者数(B) ※1	463	446	425	461	440	469	486	515	523	383	355	527	5,493
	利用者数(A)-(B)	18,429	16,943	18,172	18,507	16,270	18,244	20,414	20,093	20,370	17,224	16,915	20,691	222,272
	平成30年度の利用者数	21,550	22,361	22,666	22,010	20,078	20,275	23,809	23,139	21,556	20,030	20,333	21,074	258,881
	平成30年度との増減数	△ 3,121	△ 5,418	△ 4,494	△ 3,503	△ 3,808	△ 2,031	△ 3,395	△ 3,046	△ 1,186	△ 2,806	△ 3,418	△ 383	△ 36,609
	平成30年度との増減比	86%	76%	80%	84%	81%	90%	86%	87%	94%	86%	83%	98%	86%
	令和元年度の利用者数	21,540	22,800	22,382	22,154	19,977	22,438	18,584	20,531	19,562	19,060	18,386	12,841	240,255
	令和元年度との増減数	△ 3,111	△ 5,857	△ 4,210	△ 3,647	△ 3,707	△ 4,194	1,830	△ 438	808	△ 1,836	△ 1,471	7,850	△ 17,983
	令和元年度との増減比	86%	74%	81%	84%	81%	81%	110%	98%	104%	90%	92%	161%	93%
	令和2年度の利用者数	8,687	8,795	15,273	16,486	14,276	15,312	17,220	16,886	16,563	14,595	16,009	19,437	179,539
令和2年度との増減数	9,742	8,148	2,899	2,021	1,994	2,932	3,194	3,207	3,807	2,629	906	1,254	42,733	
令和2年度との増減比	212%	193%	119%	112%	114%	119%	119%	119%	123%	118%	106%	106%	124%	

※「乗継券利用者数(B)」は、乗継券の利用者数のみを集計している(定期券で乗り継ぎした利用者は含まない)。

図9 「う・ら・ら」利用者数の月別推移



5 まとめ

1章から4章までの公共交通の利用者数の推移をまとめたものが表7である。

表7から、令和3年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較した場合、**最も減少割合が最も小さいのが JR 武豊線の11%減、最も大きいのが知多バス（民間路線バス）の32%減**であった。

コロナ禍の影響を受けて、通勤・通学、お買い物といった移動需要が減少しているためか、公共交通の利用者数は依然としてコロナ禍以前の数値を下回っている。今後も利用者数の推移を注意深く分析するとともに、公共交通の防疫対策の周知や、回数券の共通利用等の利便性を向上させる施策、路線バスのりつぎ旅等のおでかけの楽しさを再発見していただけるような企画を今後も検討・実施し、公共交通の利用促進に努めていきたい。

表7 公共交通の利用者数の推移

		H30	R1	R2	R3	R3-H30	R3/H30	R3-R2	R3/R2
JR 武豊線	尾張森岡駅	227,044	235,339	197,154	199,574	△ 27,470	87%	2,420	101%
	緒川駅	597,063	693,989	566,900	582,692	△ 14,371	97%	15,792	102%
	石浜駅	452,914	453,298	371,773	389,375	△ 63,539	85%	17,602	104%
	東浦駅	686,571	694,238	568,192	576,142	△ 110,429	83%	7,950	101%
	計	1,963,592	2,076,864	1,704,019	1,747,783	△ 215,809	89%	43,764	102%
知多バス	大府線・大府循環線	204,644	185,828	102,487	123,761	△ 80,883	60%	21,274	120%
	東ヶ丘団地線	47,198	45,064	31,722	28,582	△ 18,616	60%	△ 3,140	90%
	刈谷中部空港線	99,710	98,383	1,775	2,399	△ 97,311	2%	624	135%
	全14路線	1,573,766	1,711,089	1,061,641	1,076,184	△ 497,582	68%	14,543	101%
タクシー		19,933	16,927	11,122	14,871	△ 5,062	74%	3,749	133%
「う・ら・ら」	長寿線	42,892	42,655	33,845	42,345	△ 547	98%	8,500	125%
	刈谷線	20,962	24,938	22,124	25,514	4,552	121%	3,390	115%
	全路線	258,881	240,255	179,539	222,272	△ 36,609	85%	42,733	123%

※数値の単位は、JR 武豊線は乗車人数（人）、知多バスと「う・ら・ら」は利用者数（人）、タクシーは利用台数（台）である。